

## 当社代表取締役会長らによる重大な不正行為について

2018年11月22日

日産自動車株式会社

IR部

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度は、当社代表取締役会長らによる重大な不正行為について皆様に多大なご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

本事案に関し、11月19日に行いました社長の西川による記者会見の要旨、および11月22日に開催しました取締役会の決議内容について、以下のとおりご報告させていただきます。

### 1. 記者会見要旨

日時：2018年11月19日（月）22:00-23:30

対応者：取締役社長 兼 CEO 西川 廣人

#### 西川による説明

社内調査の結果、当社代表取締役会長カルロス・ゴーンについて、以下3点の重大な不正行為が確認された。

1. 2009年度以降、開示される自らの報酬を少なくする為、実際の報酬額よりも減額した金額を有価証券報告書に記載
2. 目的を偽って、私的に当社の投資資金を支出
3. 私的な目的で当社の経費を支出

会社として断じて容認できる内容ではなく、11月22日（木）に取締役会を招集し、代表権・会長職を解くことを提案する。同時に、本件の首謀とも判断されるグレッグ・ケリーの代表権も解く予定。

本事案に関しては内部通報に端を発し、監査役からの問題提起を経て、社内調査を行った結果、事実確認に至った。

本事案は昨年来のコンプライアンスの徹底を進めていく中で起きた重大事であり、将来に向けて徹底的に問題の洗い出し、対策を進めていく。

今後の進め方としては、今年任命した2名の独立社外取締役に、第三者の専門家も入れた委員会を早急に立ち上げて、ガバナンスの問題提起、根本的な見直しにつなげていくというアクションを取りたい。

当社の業務運営、執行体制には大きな影響はないと思っているが、変更が必要と思われた場合は速やかに実行する。

ルノー・三菱自動車というアライアンスパートナーとの仕事の仕方に関しては、変更・微調整が必要な場合はその都度3社で相談の上、実行する。本事案は、3社のパートナーシップに何ら影響を与えるものではなく、緊密に連携してアライアンスの活動に影響が出ないよう努力する姿勢が大事だと思っている。将来に向けて、特定の個人に依存した形から抜け出し、よりサステナブルな形を目指す良い見直しの機会になるのではないかと認識しており、その方向でルノーおよび三菱自動車ともコミュニケーションを始めている。

ガバナンス面では、43%の株を保有するルノーのトップが日産のトップを兼任し、1人に権限が集中しすぎることは問題であり、今後立ち上げる委員会ではそこも掘り下げていただきたい。

本事案は長年にわたるゴーン統治の負の側面と言わざるをえない。一方でこの19年で積み上げてきた、将来に向けた素晴らしい財産も多くある。それを本事案で無にはせず、守るべきところは守って育てていきたい。

#### 主な質疑応答（冒頭挨拶と重複した内容や現時点で回答できない質問は除く）

- どういう形でゴーン氏に権力が集中していった今回のクーデターという形に至ったのか。  
今回の件は内部通報の結果発覚した不正を除去するというものであり、クーデターがあったという理解はしていない。
- 有価証券報告書に虚偽記載があったということは、粉飾決算にあたらぬのか。  
本来記載されるべきことが記載されていなかった、適正ではなかったという点については、瑕疵を認めざるをえない。
- ゴーン氏はカリスマだったのか、暴君だったのか。  
それについてはもう少し考えていきたい。初期においてなかなか他の人ができなかった大きな改革を実施した実績はまぎれもない事実だが、最近の状況を見ると権力の座に長く座っていたことによるガバナンス面・実務面の双方で弊害も見えた。これに、目に見える形で手を打っていく。
- グレッグ・ケリー氏について教えてほしい。  
もともと日産出身、執行役員を経て、専務の立場でアライアンスの業務を行っていた。また、CEOオフィス時代からアライアンスの業務に至るまで、ゴーンの側近として働いており、影響力が大きい役割だった。
- 本事案が日産ブランドに与えるダメージをどのように考えるか。  
イメージとしてゴーンと日産を重ねて見られる方も多いと思うが、現在進めているニッサン インテリジェント モビリティの取り組みをご理解いただきながら、引き続き日産ブランドをご愛顧いただきたい。
- 社長としての自身の責任についてはどのように考えているか。  
一日も早く会社を正常な状態にして先に進ませるためにやるべきことが山積しており、それを進めることが私の仕事。また、ガバナンス体制・執行体制についても変えるべきところは変え、次

世代に繋げていくということスピードを上げて行っていないといけない。その先どうするかは改めて考える時が来ると思うが、まずは今できることを集中して行っていく。

- どうしてこれだけの不正が見抜けなかったのか。  
会社の仕組みが形骸化して透明性が低かったというガバナンスの問題が大きい。その背景にあったのは権力構造。
- 当面のガバナンスはどうするのか。  
22日の取締役会で相談させていただいて、当面の運用を決める。そこで委員会の構成や時間軸を決め、その上で短期の対応、それから取締役会の構成を含めたもう少し手間のかかる対応、と両方提言をいただきたい。

以下のリンクから会見の動画をご覧ください：

<https://youtu.be/tg07t4FxFhI>

## 2. 取締役会決議内容

当社は、平成30年11月22日開催の取締役会において、以下のとおり、代表取締役の解職及び会長職の解職について決議いたしましたので、お知らせいたします。

カルロスゴーンにつき、社内調査の結果、本人主導による、以下の重大な不正行為を確認したため、代表取締役及び会長職を解職いたしました。

- ① 長年にわたり、開示される自らの報酬を少なくするために、実際の報酬額よりも減額した金額を有価証券報告書に記載していたという不正行為
- ② 目的を偽って、私的に当社の投資資金を支出するなどした不正行為
- ③ その他、私的な目的で当社の経費を支出するなどした不正行為

グレッグケリーにつき、社内調査の結果、カルロスゴーンとともに本事案の首謀と判断されるため、代表取締役を解職いたしました。

当社のガバナンス管理体制および取締役報酬にかかるより良いガバナンスについて、独立した第三者の提言を適切に取り入れるための委員会の設置を検討します。本件の進め方については、社外取締役の豊田 正和氏、井原 慶子氏、ジャンバプティステ ドウザン氏の三名に委任します。

取締役会長選任については、豊田 正和氏を委員長とし、井原 慶子氏、ジャンバプティステ ドウザン氏によって構成される委員会を設置し、現取締役の中から取締役会長候補を提案します。

以上